

岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター (FAMS)

令和4年度 成果発表会 および JRA 畜産振興事業にかかる BLV 研修会の開催について

日時：令和5年2月20日(月) 13:00~15:00

会場：岩手大学総合教育研究棟(生命系) ぼらんホール並びにオンライン(Webex)による開催
およびオンデマンド開催

主催：岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター (FAMS)

参加費：無料

【プログラム】

13:30-13:35	開会あいさつ
13:35-14:35	成果発表① 口頭発表 1. 「野鳥の感染症に関する研究」 食の安全部門産業動物実地疫学ユニット 畑井 仁(産業動物臨床・疾病制御教育研究センター 特任教授) 2. 「人と家畜の関係とこれからの食糧生産」 動物生産部門食糧生産動物医学ユニット 宮崎 珠子(共同獣医学科 准教授) 3. 「微量脂質成分の作用による生体膜環境の形成原理の理解」 環境放射線衛生学部門 西山 賢一(応用生物化学科 教授)
14:35-15:00	成果発表② 動画による発表 裏面記載の発表内容を成果発表会当日から1週間程度オンラインで公開いたします。成果発表会ではそのうちから5題程度を発表いたします。
15:00-15:20	JRA 畜産振興事業にかかる BLV 研修会 「地域 BLV 検査センターと感染子牛センターを組み合わせた総合型牛伝染性リンパ腫清浄化モデル開発事業」について
15:20-15:30	質疑応答
15:30	閉会あいさつ

申込方法：

フォームからの申込または申込用紙をメール・FAXにて2月13日(月)17時までにお申し込みください。

※当日ご参加いただけない場合でも、開催日翌日から1週間程度オンデマンド視聴可能としますが、申込があった方のみとなりますので、当日参加・オンデマンド参加に関わらずお申し込みをお願いします。

—お問合せ先—

岩手大学農学部地域連携推進室内

動物医学食品安全教育研究センター(FAMS) 事務局

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

TEL: 019-621-6108 FAX: 019-621-6107

MAIL: fams@iwate-u.ac.jp

FAMS 成果発表②動画による発表

【食の安全部門】

食品安全科学ユニット

「岩手県の食肉処理場に搬入された豚の直腸便および豚肉における志賀毒素産生性大腸菌の性状解析」

寺嶋 淳 (共同獣医学科 教授)

「アデニン誘発腎障害モデルマウスの腎性貧血における腎間質細胞とエリスロポエチン産生の関与」

佐藤 洋 (共同獣医学科 教授)

「国内野生ニホンジカにおける Sarcocystis 属の定量的疫学解析」

山崎 朗子 (共同獣医学科 助教)

「ロスマリン酸が敗血症に与える影響の検討」

前原 都有子 (共同獣医学科 助教)

産業動物実地疫学ユニット

「神経膠腫誘発鳥白血病ウイルスの複数株共感染の証明」

落合 謙爾 (共同獣医学科 教授)

「ウシ PLAC1 の発現動態と妊娠診断における有用性の検討」

木崎 景一郎 (共同獣医学科 教授)

「ラット喉頭蓋粘膜に分布する葉状神経終末の三次元立体構造」

山本 欣郎 (共同獣医学科 教授)

「乳腺腫瘍細胞に対する HER2 阻害薬の効果の検証」

大沼 俊名 (共同獣医学科 准教授)

「ウシ IFN-tau 機能解析に向けた新規モノクローナル抗体の作出」

山田 慎二 (共同獣医学科 准教授)

【動物生産部門】

動物生産科学ユニット

「体外発生培地への CSF2 添加がウシ体外受精胚の遺伝子発現動態におよぼす影響」

澤井 健 (動物科学科 教授)

「OPU ドナーにアルギニンを給与しても胚移植後の受胎成績に影響はなかった」

平田 統一 (寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 准教授)

食糧生産動物医学ユニット

「凍結精液による農用馬の人工授精プログラムの検討」

高橋 透 (共同獣医学科 教授)

「哺乳期子牛におけるグリセリン投与による肝門脈・肝静脈および頸静脈血の推移と肝臓の遺伝子発現」

一條 俊浩 (共同獣医学科 准教授)

「深層学習による牛の削蹄領域判別方法の検討について」

高橋 正弘 (共同獣医学科 准教授)

「超音波画像診断装置を用いた牛眼疾患の診断」

木村 淳 (産業動物臨床・疾病制御教育研究センター 特任准教授)

「黒毛和種牛において下顎骨の一部とともに歯肉腫瘍を切除した例」

木南 藍子 (動物病院 特任助教)

【環境放射線衛生学部門】

「糖ヌクレオチド輸送体 Slc35a3 欠損マウスの作製とウシ複合脊椎形成不全症モデル動物としての評価 II」

古市 達哉 (共同獣医学科 教授)

「茶葉に含まれる Cs-137 と自然放射性物質の地域差」

佐藤 至 (動物医学食品安全教育研究センター 教授)